令和6年
市報たく
No. 6
No. 756

もくじ

02 まちの話題
06 特集1　風水害の季節に備えて
08 特集2　特定健診
10 多久市からのお知らせ
19 あじさいへ行こう！
20 教育委員会だより
21 市長コラム
22 健康ノススメ
24 おたっしゃだより
26 まちのPickUPインフォメーション
30 たくさんレシピ ほか

4月18日[Thu]

孔子嫡孫・孔 垂長氏が見守るなか、春季釈菜を開催

▲伶人による雅楽の演奏が響くなか、厳かに式典が行われました

▲一生懸命腰鼓を披露する東原庠舎西渓校の生徒のみなさん

▲挨拶をされる孔垂長氏（左）

▲最後まで熱心に見学される孔垂長氏ご夫妻

「春季釈菜」（主催：公益財団法人孔子の里）が、孔子の79代嫡孫・孔垂長氏を招待し、多久聖廟で開催されました。孔子の直系嫡孫の参列は昭和52年（1977年）秋季釈菜に来訪された77代孔徳成氏以来47年ぶりとなります。

釈菜の前に聖廟周辺を見学。曲阜市から贈られた孔子像、大伯母である孔徳懋女史が書かれた石碑などをご覧になりました。

垂長氏が見守るなか釈菜は始まり、伶人が雅楽を奏で、横尾俊彦市長らが扮する献官、祭官が厳かに儀式を執り行った後は、聖廟境内で釈菜の舞、参列生徒の唱歌、揚琴の調べ、孔子の里腰鼓が華やかに披露されました。

垂長氏は祖父、大伯母も目にした儀式を感慨深くご覧になり、子どもたちによる釈菜の舞など最後まで見学されました。

孔 垂長氏からご挨拶をいただきました

北京で横尾市長に初めてお会いして10年以上が経ちます。この間、市長の度重なる温かいご招待のおかげで本日ようやく多久市を訪問でき、祖父の足跡をたどる機会を得ることができました。

多久市の孔子廟では300年以上にわたり、毎年春と秋に釈菜が行われていると聞いています。祖先である孔子とその弟子を祀り、論語を学び、その文化を継承されていることに深く敬服し、心から敬意を表します。

現代社会は物質文明が高度に発達する一方で、さまざまな問題を引き起こしています。孔子の教えは現代社会に依然として大きな意義をもち、文明がどれほど発達しても、テクノロジーがいかに進歩しても、私たちは基本的な倫理と道徳、信念と価値観を維持することが必要です。

最後になりますが、多久市の文化が世界中に広がることをご祈念いたします。

今月の論語

有言者不必有徳。
言ある者　必ずしも徳あらず

出典：憲問第十四

口ではすばらしいことを言っても、その行いは立派でない人もいる。

今月の帰宅放送は、東原庠舎西渓校9年の古賀 心優さんです。